

# 全国ブロック支援活動報告【新潟県】

新潟県・長岡市・柏崎市・阿賀野市・小千谷市・見附市・胎内市

## 1 支援先自治体及び状況

- 支援先自治体 宮城県塩竈市
- 被災状況

震災発生から10日後に現地に到着したが、未だに燃料や食料品などの供給が十分でないため、市内のガソリンスタンドには毎日のように2キロ近く車が路肩に停まっていた。また、派遣先である宮城県塩竈市は、海に面していることから津波の被害もあり、現地職員は2mの津波が来たと話していた。港近郊の住宅地域は自宅に流れ込んだ土砂の後片付けに追われていて、またコンビニ等の商店は、営業しておらず被害の少ない商店には、食料品を買い求めに長い行列ができていた。

全体的には、地震の被害よりも津波の被害が大きく、例えば、津波による家屋の浸水被害が見られるとともに、地盤沈下の影響からか海沿いの低地が冠水したままになっていた。



## 2 支援人数・支援期間

● 支援人数 17名(1班体制で5日～7日で交代)

● 支援者のメンバー構成

【第1陣】 3/23(水)～27(日)

新潟県 2名(土木職 2名) ※新潟県は24(木)まで

長岡市 5名(土木職 5名)

【第2陣】 3/27(日)～31(木)

柏崎市 3名(土木職 3名)

阿賀野市 2名(土木職 2名)

【第3陣】 3/31(木)～4/7(木)

小千谷市 2名(土木職 2名)

見附市 2名(土木職 2名)

胎内市 1名(土木職 1名)

## 3 支援期間

3/23(水) 第1陣(新潟県・長岡市) 出発

宮城県栗原市へ到着。

宮城県塩竈市へ移動後、1次調査開始。

3/24(木) 新潟県2名が帰庁。

3/27(日) 業務引継ぎ。長岡市5名帰庁。

第2陣(柏崎市・阿賀野市)が現地着。1次調査に入る。

3/28(月) 長岡市5名帰庁。

3/31(木) 業務引継ぎ。第2陣帰庁。

第3陣(小千谷市・見附市・胎内市)が現地着。1次調査に入る。

4/5(火) 新潟県担当分の1次調査が完了。

4/6(水) 資料整理(内業)

4/7(木) 第3陣(小千谷市・見附市・胎内市)が帰庁。

#### 4 下水道管渠の状況

(一次調査のため、マンホール開閉のみでの確認状況)

- 液状化現象は見られず、マンホールの突出も少なかった。
- 終末処理場や中継ポンプ場の停止による滞水が見られた。
- 山沿いエリアの汚水管渠は、比較的固い岩盤層であるためか、被災はほぼ皆無に近い。
- 海沿いエリアの雨水管渠では、滞水や土砂堆積がみられた。  
ただし、地盤沈下によるものなのか、高潮による逆流の影響なのかは判断つかず。
- マンホール斜壁等のズレが多少あったが、当地震との関連は低いように思われる。



被災マンホールの浮上状況



被災マンホール内部の滞水状況



マンホールずれ・土砂堆積



マンホールずれ

## 5 一次調査の活動状況

### ●第1陣から第3陣までの調査実績

- ・ 実施延長 L=54.9km (日平均 4.2km)
- ・ 実施スパン数 2,313スパン (日平均 177.9スパン)
- ・ 被災マンホール数 74箇所 (日平均 5.7箇所)

### ●調査内容

マンホールを開閉し、滞水・マンホール破損の有無を確認した。異常が見られた箇所については、滞水深、マンホールのずれなどを記録し、写真を撮影した。指定エリアの調査終了後に、報告書作成と写真整理を行った。



一次調査状況(第1陣)



一次調査状況(第2陣)



一次調査状況(第3陣)

## 6 支援活動を通じての感想

5日間の滞在だったが、報道等で知る現場とは違い、車が通るたびに粉塵が舞い衛生環境は決して良いとは言えず、とても衝撃的な現場であった。

滞在中に一番困ったことは、燃料の確保で、市内のガソリンスタンドでは、給油の期待は出来ないため、緊急車両専用のスタンドから少量ずつ給油している状況だった。今回の調査では、液状化やマンホールの隆起などの被害は見られなかったが、下水道施設における耐震化について今まで以上に検討していく必要があると思う。(第1陣 長岡市より)

調査を終えてみると比較的被災のないエリアを念のため確認したという結果となってしまった。しかし、被災地の市職員のみでは管路調査もままならないため、全国から支援をいただけることは被災市にとって大きな助けになると思われる。(平成19年の新潟県中越沖地震時は中部ブロックから柏崎市の被災状況を確認していただいた経験より)

塩竈市の海岸部は地盤沈下が想定されており、下水道管きよの基礎に細心の注意をし設計していたとのこと。地震動および液状化による被災の程度が低かったことは、このことが幸いしていたように思われる。(第2陣 柏崎市より)

中越大震災で目立った液状化によるライフラインの被害は、皆無と言っていいほど少ないが、津波による家屋への浸水被害等が海沿いで目立つ。津波被害に遭われた方への支援等が今後課題と思われる。(第3陣 小千谷市より)